

JASCT

ニューズレター

第14巻第2号

平成7年(1995年)6月

発行人: 松本清一 印刷所: 絢文社

平成7年度 学会の予告

1. 第12回 世界性科学学会

期 日 8月12日(土)~8月16日(水)
場 所 パシフィコ横浜(神奈川・横浜)
学会長 松本清一(JASCT会長)

2. 第15回 日本性科学学会

(メインテーマ:「人間と性との関わりを見つめて」)

期 日: 平成7年9月17日(日) 午前9時~午後6時
場 所: 埼玉県県民健康センター 大講堂(2階) (浦和・埼玉県庁前 Tel: 048-824-4801)
学 会 長: 矢追良正(独協医科大学越谷病院産婦人科 教授)
参 加 費: 一般 3,000円 会員・教職関係者: 2,000円 学生: 1,000円
挨 拶 埼玉県産婦人科医会会長 丸山正義
特別講演1 性科学の世界の流れ JASCT会長, 日本家族計画協会理事長 松本清一
特別講演2 生殖医学と倫理 大東文化大学法学部教授 中谷謹子
学会長講演 女性の性意識と性機能の変化について 独協医科大学越谷病院産婦人科教授 矢追良正
教育講演1 中高年婦人のQOL(性的側面) 広島大学保健学教授 石井とく
教育講演2 AIDS時代における行動科学としての性教育 千葉大学教育学部教授 武田敏
シンポジウム『学校性教育の現状と未来』 モジュレーター 埼玉県産婦人科医会副会長 小林輝夫
他 教育講演, シンポジウム, 一般演題

【一般演題申込み】

締 切: 平成7年6月30日(金)

テーマ: (1)性教育 (2)性の臨床 (3)中高年の性 (4)その他

800字以内の講演要旨を和文タイプまたはワープロにて記載し, 下記宛お送り下さい。

学会連絡先及び一般演題送付先: 〒343 埼玉県越谷市南越谷2-1-50

独協医科大学越谷病院産婦人科

第15回日本性科学学会事務局

(林 雅敏, 榎本英夫, 矢追正幸)

TEL 0489-65-1111(内5313)

Vol. 14

No.
2

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

思春期外来における性のカウンセリング

小松島赤十字病院産婦人科

思春期外来 吉 田 順 一

小松島市は四国の東端に位置し、人口約4万人の小さな市で、小学校が11校、中学校が3校、高等学校が2校あります。平成元年4月に思春期外来を開設いたしました。以来今日まで7年間に、月経異常、心身症、不登校、10代妊娠、分娩、STD等、多くの思春期の子ども達と接してまいりました。今回は性にかかわるカウンセリングについて私なりの考え方をのべてみます。月経異常を訴えて訪れた子ども達は思春期外来者中33.4%、STDは24.2%、10代分娩は当院の全分娩の1.7%でした。情報化時代による性の早熟化、自由化の現在、のぞまない妊娠・分娩が増加していることを考えた所、思春期外来に訪れる月経異常の子ども達を治療するだけにとどまらず、この治療の機会を利用して Human Sexuality を教えなければと考えその都度、子ども達の疑問や質問に積極的に応答しております。月経異常の治療者の中には、現に初交を経験したもの、また現在も性交をつづけている高校生は0.8%あります。性行動は、性的に健康状態である証しなのだが、健康の概念の中には、心理的、社会的、文化的、等を含む統合された存在として人間の性があることを手を替え、品を替えてまず教えてやると素直にきいてくれます。更に人間の性行動には、快楽性の要素が大きく、その事から二人の連帯性がつよまるが、生殖も一緒にくっついてくることを教えてやります。その実例として当院の10代分娩数を示し、この中からのぞまなかった妊娠が68.6%もあったこと、また、両者の年令の為に未入籍が17.4%もあり、その半数はパートナーの男性が17歳以下であった事実等を示し、これらの分娩した思春期の子ども達に一番不足していたものは、月経に対する意識・知識の欠如であることを強調して、自分たちのSexualityをどの様に洞察してゆくべきかを考えさすことにしています。

更に人間の性の特殊性として生殖の目的以外に性行動を行う特質的なものがある事を決して否定的に扱わないことで、人間の性を是認し、その上で人間の性が社会的な制約を受けており、社会的倫理として容認される性行動は、婚姻関係、もしくは、分娩により婚姻関係を成立させることのできる男女なのだということを教えて、性の社会的意義にまで洞察できる様にしてやっています。また快楽性もあり、社会的意義もあるので、当然経済的な面が加わることを知らしてやりますが、“性交をするな”とは言いません。性行動をおこすか、おこさないかの意志決定はパートナーとの間で決める様に指導してやります。男は愛で性を、女は性を愛で置換して容易に性行動をおこしている現在、女子には性の意志決定の能力を、月経異常の治療に通院している3～6カ月の間に育くんでやりたいと考えてカウンセリングを進めております。

昨年度に校外講師による“思春期の性”の授業を県下3高校でやらせていただきましたが、男子生徒から15通の手紙をいただきましたが、すべてに「性の社会的意義がわからなかったが、将来、性行動の機会があった時には、必ずこれを考えることにします」という内容でした。

思春期外来の性のカウンセリングは、性を否定的に扱わず、教えて、考えさせて、洞察に導びき、意志決定能力を育くんでゆく様にしてやるのが、大切なことと思います。

参考文献

- 1) 吉 田 順 一； 当院における思春期外来，臨床婦人科産科 46(11)：1361－1363. 1992
- 2) 小 島 泰 代 ら； 当院における10代分娩の実態，母性衛生学会 35(4)：252－256，1994

ニューズレター第14巻第1号より、2面はJASCT症例研究会が担当し、いろいろな症例や問題を取りあげていく予定でありますが、今回は、誌面の都合上休載させて頂き、9月号に掲載いたします。

ニューズレター編集部

女子割礼について

長池優生保護相談所 長池博子

最近リプロダクティブ・ヘルスという言葉がよく使われている。「生殖に関する健康」と訳されているので、男性に無関係ではないが、特に女性にとって重要な妊娠・出産に関わる問題を提起している内容の言葉である。

さて、割礼は男子に行われているのは知られているが、女子に対する割礼は一般の医学書にもなく、昨年カイロの会議にNGOとして出席した女性グループの報告集を読んで、こんな過酷な因習が今もあるとは驚愕せざるを得なかった。世界の人権問題、女性解放運動、国際文化、或いは民族学的な分野ではご存知の方もあろうかと思うが、産婦人科医の立場から考察を加えて述べてみたい。

「女子割礼」は主にアラブ世界に於いて現在でも約1億人の女性に対して実施されている慣習である。これは4～5歳の頃の自分の意思ではなく、あくまでも昔からの因習として、男性への絶対服従、処女性の強要、歪められた女性像の象徴として「女子割礼」が強制され、現在も尚続いているのである。

○女子割礼とは

「女子割礼」は女兒や幼い少女に対して行われるいろいろな種類の女性性器切除に対して、アフリカや中東で一般的に使われている言葉であるが、医学的には不正確な用語である。

*手術の方法—3つの方法があって地域や部族によって異なる—

① スンナ割礼（スンナはアラビア語で“伝統”を意味する）

クリトリスの包皮と先の部分を切りとる。

② 切除方式

クリトリスと小陰唇を切除する。

③ 陰部封鎖（ファラオニック割礼）

クリトリスと大陰唇と小陰唇（女性の外性器）を切りとった後、膣を封鎖する為に左右の外陰部を縫い合わせる。粘着性の練り物で留めることもある。尿の出る部分と、後に月経の出血が出る部分に木切れをさしてこんで小さな穴をつくる。そして子どもの両足をしっかり縛って数週間、傷が治るまで固定する。

* 執刀者

アフリカと中東の殆どの国で、老女、伝統的出産付添人、世襲の商売人などが手術を行っているが、執刀者は解剖学の知識を持たず、無菌的に行われているわけではない。多くの地域では女性たちだけが手術に立ち会うが、手術を命じ金を払うのは男たち（父親）である。手術はしばしば地面、小屋の床、木の下などで行われ、ふつう数人の身内の女性が子どもを押さえつける。麻酔薬は使用されないで、その激痛の記憶は一生忘れることが出来ない。しかし性器除去されていない少女たちは結婚を拒絶されるので、幼い内に本人が拒めないうちに手術をされる。多くの国々で執刀者たちはよい報酬を得ている。

* 健康への影響

1. 直接的な体への影響

出血と細菌感染、苦痛によるひどいショック、破傷風、壊疽、敗血症、汚い道具による感染、排尿困難、尿道や会陰部などの損傷がある。しかし合併症を併発しても、少女が死んでも、執刀者も手術そのものも問題にされない。

2. 出産の時

陰部封鎖の場合は、出産する時は外陰部を切除しなければならない。もし誰か助けなければ、母子共に死ぬこともある。特に第一子出産の時は切除手術で硬くなった部分は拡張しにくく、胎児の娩出を妨げ、会陰が裂ける。また新生児の脳の損傷を起こすこともある。

3. 長期にわたる影響

月経時の苦痛（月経血の流出困難もある）、性交時の苦痛、陰部封鎖した場合には性交をする為に、封鎖傷を切ることがしばしば必要となる。それで尿道感染症を起こしたり、不妊症になったり、瘻孔形成のために失禁になる可能性もある。

4. 心理的影響

性的去勢による不感症といった有害な結果は無視されてきたし、割礼の手術による長びく苦痛や、性交の問題や分娩合併症による心理的な外傷は全然研究されていないのである。

○国際的立場からの提言

1994年9月、カイロで開催された国際人口・開発会議で採択された行動計画第7章で、リプロダクティブ・ヘルス／リプロダクティブ・ライツの項で「女性性器切除などの有害な慣習」を積極的に防止することも、リプロダクティブ・ヘルスケア・プログラムを含むプライマリー・ヘルスケアの重要な構成要因でなければならないとうたっている。

〔リプロダクティブ・ヘルス〕とは

リプロダクティブ・ヘルスとは「生殖に関する健康」のことをいう。とくに妊娠出産のシステム及びその機能とプロセスにかかわるすべての事象において、単に病気や障害が無いと言うことではなく、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることをいう。したがって、①人々が安全で満足のいく性生活を持てること。②子どもを産む可能性を持つこと。③家族計画の情報入手と選択の自由を持てること—即ち子どもを産むなら、いつ、何人産むかを決める。その為には男女共に安全で効果的な受胎調節の情報を得、その方法を利用する権利も含まれる。

○リプロダクティブ・ヘルスが必要とされる地球的指標（1992、WHOのM.F.ファターラ氏による）

1. 世界には6,000万～8,000万人の不妊症のカップルがいる。
 2. 既婚女性の避妊実行率が全世界で51%、途上国では46%である。また人工妊娠中絶は毎年4,000万～6,000万件あって、その25～40%は非合法で行われている。
 3. 女性性器切除が約40カ国で、伝統的慣習として行われている。
 4. 4歳以下の乳幼児死亡が1985～1990年に1,500万件あり、特に1993年の発表によると、最近10年間に150万人の乳幼児が戦争で死亡している。
 5. 妊産婦死亡率が1,100（出生10万対）にのぼる国がある。毎年約50万人の女性が、妊娠・出産に関することで死亡していること。
 6. 様々な性感染症が蔓延しており、1990年代にはエイズ患者の約半分が女性になると予測されること。また母子感染により子どもにも深刻な影響を及ぼすと考えられること。
- 以上のような理由で女性の健康ということは世界的視野による問題とされている。

○まとめ

1. 女子割礼は女性の一生を心身ともに障害者にする行為である。
2. 女子割礼は医学的に非衛生的に行われており、出血、感染症、性交障害、出産等、リプロダクティブヘルスを著しく侵害する行為である。
3. 社会的経済的に権限を有する男性が、女性を私物化のために女子割礼を行うことは、男性性をも豊かにすることは出来ない。

最近WHOで女性と子ども達の健康について革新的勧告（ハルツームセミナーで）が出され、アフリカ諸国の指導者が女性性器切除を禁止しているが、未だ履行されていない。1984年にアフリカの女性たちが「インター・アフリカン・コミティー（IAC）」を創立して因習を根絶する努力をしているということである。

しかし何よりも重要な対策は「女子教育」の普及と、男性の人権を認めると同時に女性にも人権があることを自覚することである。

今年は国連第4回世界婦人会議が8月30日から9月8日まで中国の北京で開催されるが、それと並行して女性NGOフォーラムも開催され、テーマは「女性の目を通して世界を見よう」である。「女性の健康と人権」の問題は本音のところで日本もまだまだ取り組まなければならない問題を抱えている現状だと思われる。

以上リプロダクティブ・ヘルスに関連して女子割礼について報告した。

- 参考文献
1. 世界人権問題叢書No.10「女子割礼」著 フラン・P・ホスケン、訳 鳥居千代香
 2. 「イヴの隠れた顔」著 ナワル・エル・サーダウィ、訳 村上真弓
 3. '94カイロ国際人口・開発会議「女性と健康ネットワーク」報告集

事務局からの報告

■阪神大震災義援金募集ご報告 平成7年3月発行のニューズレター第14巻第1号において、阪神大震災で被災された会員の方々への義援金募集をお願い申し上げましたところ、多くの方々からの暖かいご賛同を得て、総額22.5万円の募金となりましたことを厚くお礼申し上げます。

大震災発生より既に数ヶ月が経過しております。集まったお金はこの時期において最も有効な使途を考え、皆様の暖かいお気持ちを被災された会員の方々にお伝えしたいと存じております。

皆様のご協力に心から感謝し、ここにご報告申し上げます。

■日本性科学会設立のお知らせ 去る4月16日の理事会において、日本セックス・カウンセラー・セラピスト協会を発展させ、「日本性科学会」を設立することが決定しました。

設立総会は、来る9月17日（日）第15回日本性科学学会の際に開催します。追ってご案内いたしますので、どうか奮ってご出席下さい。

■叙勲のお知らせ 飯沼守夫監事（東京女子医大名誉教授）が平成7年度春の叙勲において勲三等瑞宝章を受賞されました。心からお祝い申し上げます。